

平成二十二年七月三十日提出
質 問 第 六 号

北方領土返還問題を早期に解決することに向けての菅内閣の姿勢に関する質問主意書

提出者 木村 太郎

北方領土返還問題を早期に解決することに向けての菅内閣の姿勢に関する質問主意書

去る七月二十七日、北方領土返還を早期に解決することを訴えるため、元島民の孫ら中学生七人が総理官邸を訪問した。報道によれば、菅直人内閣総理大臣は官邸に居ながら面会をせず、仙谷由人内閣官房長官が対応した。中学生からは「総理に会いたかった。」と残念がる声もあつたとされている。我が国固有の領土である北方領土が返還され、ロシアとの間で平和条約を結ぶことは極めて重要と考える。従って、次の事項について質問する。

一 報道にあつたとおり、菅総理が官邸を訪問した中学生と会わなかつた理由は何か。その時間帯に、より重要な日程があつたのか。具体的な答弁を求める。

二 一に関連し、官邸を訪れた中学生七人の皆さんをはじめ、元島民関係者の皆さんに会わなかつたことについて、菅総理はどのような思いを持つのか。

三 現在、ロシアとの間での北方領土返還交渉を、菅直人内閣としてどのように捉えているのか。

四 菅内閣の方針としては、北方領土四島一括返還を求めているのか。

五 北方領土返還解決に向け、今後、ロシアとどのように協議を進め、また、国連をはじめ国際社会にどの

ように協力を求めていくのか。

右質問する。